



# 高校生による鎌倉市役所での実践型インターンシップについて

- 本資料を作成する目的と背景について
- 鎌倉市役所での実践型インターンシップの取り組み内容
- 鎌倉市役所職員へのインタビューを通じた取り組みの評価
- インターンシップを終えて、課題と改善について

---

鎌倉市役所 こどもみらい部 青少年課 インターン生 平野央

2023年3月25日

# 本資料を作成する目的

▶本資料では以下の目標の下作成し、公開します。

## 高校生インターンの取組みの明確化と周知を行います。

具体的に何が行われたのか、どのような背景や目標があったのか、これらを明確にすることによって、学生との協働の推進をまち全体で取り組む風土づくりに貢献します。

## 実現過程を透明にし、同様の取組みの推進を図ります。

また実現までの過程を明確にし、具体的なマニュアルを作成することで学生との協働のハードルを下げ、より多くの協働事例が生まれることに繋がればと考えています。

## インターンの効果や課題を質的に解明し、意義を検討します。

インターンによってもたらされた効果や変化を解明するとともに、課題の抽出まで行い、今後の改善や他の取組み実施の根拠となるよう実証していきます。

# インターンシップ実施の背景①

引用元：<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku-shidou/kodomogikai.html>

## ▶子どもの社会参画とその支援法の確立が要請される社会

現在の日本では、選挙権18歳への引き下げに伴い、青少年も次世代を担う存在として、積極的な社会や地域への参加が求められており、国の『令和4年度版子供・若者白書』では、「社会形成に参画する態度を育む教育の推進」や「ボランティア活動等による社会参画の推進」の必要性、その支援策の検討が多く述べられています。鎌倉市でも同様に『鎌倉市 子ども・若者育成プラン』の中で、青少年の居場所づくりと並び、地域の担い手となる青少年の社会参画の推進を掲げており、現在に及んで取り組まれています。



## ▶市政への子どもの意見表明機会の必須化

また、国では「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども家庭庁の設置を推進しており、子ども政策決定過程における子どもの意見の積極的かつ適切な反映を目指しています。現在の具体的な施策としては、対面やオンラインを用いた子どもへのヒアリングや、SNSやweb上でのアンケート等の実施、他にも模擬議会や委員会の設置など、様々な形式での意見表明機会の提供を行っています。鎌倉市では平成12年度から『かまくら子ども議会』に取り組んでおり、社会参画の機会創造とともに子どもたちの声の回収に努めています。



# インターンシップ実施の背景②

## ▶これまでの市役所と市内学生団体との協働事例

鎌倉市では市独自の事業の他、地域の学生団体との協働を果たし、子どもの社会参画や意見表明の場づくりに取り組んでいます。社会参画の面では令和2年度「市民対話」の場にて、学生たちをファシリテーターとして登用し、市役所職員や地域住民との交流できました。また学生団体側の要請を受け、市長と学生の対話の場「市長対話」の実現を共創し、市長のまちづくりに懸ける想いを学生たちが聞くとともに、若者の率直な感想や意見を行政側は聞き入れ、市の方針や政策創造の機会に取り入れるなど、お互いの交流が進んでいます。

## ▶協働を超えて、インターンシップ実施に至った経緯

以上のような行政と学生との間で様々な協働に取り組む一方、市役所側では、学生とつながりを持てる職員や、協働事業に対応できる人材の不足感から取り組みの鈍化など発展性・持続性の面で課題が散見されるようになりました。また、学生側でも協働による市役所への影響力の限界の認識から行き詰まりを感じ、新しい協働の進め方を検討していました。それらお互いの課題感を述べ合う中で、内側から体制を変え、関係を整備する若者を市役所内部に取り込む必要性が語られ、打ち合わせを重ね「高校生インターンシップ」の取組みが浮上し、実現に向けて動き出すことになったのであります。



# インターンシップでの取り組み内容①

引用元：<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyoshokuin/shokubakankyoukaizen.html>

## ▶ 青少年会館の視察と有効活用の検討

鎌倉市には、鎌倉青少年会館と玉縄青少年会館という2つの青少年施設が存在しています。今回のインターンシップでは、鎌倉青少年会館の方へ視察に伺い、こどもたちの家庭や学校以外での居場所、「第三の居場所」への有効活用を青少年課職員とともに検討を行いました。他県のユースセンター事業を参考にしつつ、鎌倉のこどもたちに何を提供できるのか考え、グラウンドに新たな遊具を設置するなどのスポーツ促進や、室内にいつでも利用できる自習室を設ける等、さまざまなアイデアが生まれました。



## ▶ 令和4年度「青少年問題協議会」への参加

以上の検討を踏まえ、より実現に近づけるため、令和4年度「青少年問題協議会」に参加し、委員の方々と第三の居場所づくりについて議論を行いました。協議会の中では、実際に支援を享受する世代の一人として、アンケート結果や検討されている事業に対する意見や助言を行い、当事者の声を届けることを意識しました。結果として委員の方から、すぐに若者からの反応を見ることができ議論が深まったと思う、とコメントをいただき、良い効果を生むことができたのではないかと振り返っています。

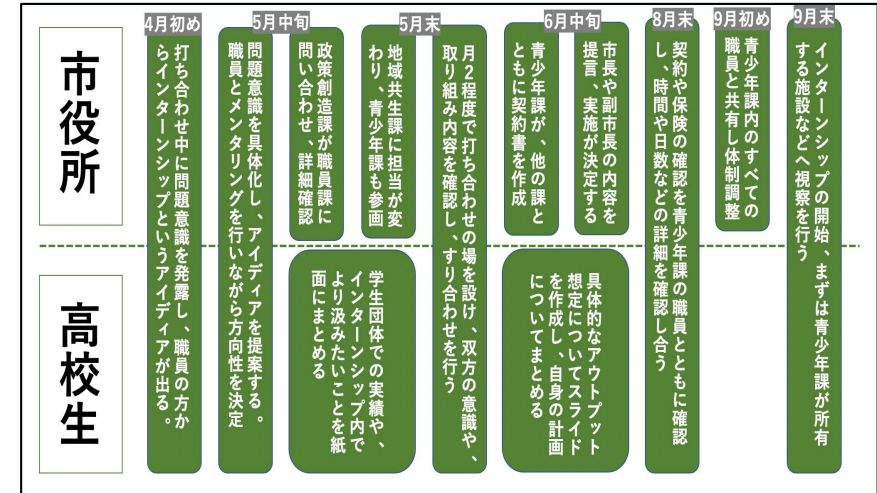


# インターンシップでの取り組み内容②

引用元：https://www.youtube.com/watch?v=GPMk249YSZU

## ▶ インターンシップ実現までの透明化

加えて、高校生のインターンシップを再現可能かつ事例として共有できるようにするため、実施過程の透明化にも取り組みました。どのような問題意識で、誰が調整に参加し、どのように実現にむけて行動したのか、これらを明確にすることでマニュアル化が促され、今後若者の参画支援に取り組みやすくなると考えたからです。実際に職員へのインタビューなどを通して透明化に取り組むことで、学生との協働の間にある課題、また得られた効果の共有にもつながり、協働の土壌づくりに貢献できたと考えています。



## ▶ 学生と市役所との協働事例の明瞭化

またそれと並行して、過去の市役所と学生の協働事例を調査し、整理することに取り組みました。先のインターンシップ実現までの透明化と同様、問題意識として事例の反省やまとめができておらず、他の事業に共有することが難しい、と感じていました。右図のように目標や実施内容、また調整の過程や関係者を書き出すことにより、事例として参照しやすい形に落とし込みました。これから新しく学生との協働を考えると、職員の方々が参考し、より効果的な事業を生み出すきっかけになれば幸いです。



# インターンシップ実施までの調整過程

▶ここでは、職員へのヒアリングを通じた実現までの経路を明確にいたします。

市役所

高校生

4月初め

打ち合わせ中に問題意識を発露し、職員の方からインターンシップというアイデアが出る。

5月中旬

問題意識を具体化し、アイデアを提案する。職員とメンタリングを行いながら方向性を決定

政策創造課が職員課に問い合わせ、詳細確認

学生団体での実績や、インターンシップ内でのより汲みたいことを紙面にまとめる

5月末

地域共生課に担当が変わり、青少年課も参画

月2程度で打ち合わせの場を設け、双方の意識や、取り組み内容を確認し、すり合わせを行う

6月中旬

青少年課が、他の課とともに契約書を作成

具体的なアウトプット想定についてスライドを作成し、自身の計画についてまとめる

市長や副市長の内容を提言、実施が決定する

8月末

契約や保険の確認を青少年課の職員とともに確認し、時間や日数などの詳細を確認し合う

9月初め

青少年課内のすべての職員と共有し体制調整

9月末

インターンシップの開始、まずは青少年課が所有する施設などへ視察を行う

# インターンシップ実施に関わった職員へのヒアリング①

Q インターンシップ開始前どのような期待や不安がありましたか？

若い人とコミュニケーションが取れる機会が増え、中から気づきを共有してもらえるので今の行政に必要な存在だと感じていました。一方で事務的なものに収まってしまわないよう、目標などの共有をしっかりと行っていかなければ、と考えていました。

Q インターンシップ通した気づきや、心境の変化などはありましたか？

若い方の視点を確認したいタイミングが想像以上に多くあり、すぐにフィードバックをもらえるのはすごく良かった反面、行政組織の前提や考え方など、協働する上で共有すべき価値観や内容も多く見つかりました。

Q 仕事や行政活動になにか良い効果や逆に負担になってしまった点はありましたか？

特に地域共生課として負担になることはありませんでした。しかし、受け入れの課ではない分、スムーズさにかけてしまった部分や手が回りきらない部分があり、他の業務との兼ね合いは改めて考える必要は感じました。



地域共生課 矢作さん



# インターンシップ実施に関わった職員へのヒアリング②

Q インターンシップ開始前どのような期待や不安がありましたか？

具体的に平野君に何をやってもらうか、という不安は常にありました。あくまでインターン生であるため、事務・作業的なものをさせるのは違うと感じる一方、週一來庁のなかでコミットできるものを考えるというのも難しかったです。

Q インターンシップ通した気づきや、心境の変化などはありましたか？

子ども・若者を行政に取り込み、意見を取り入れる仕組みを作るべきだ、という自分の考えに確信を持つことができました。協議会での様子や他の委員の方々の反応を見て、子ども・若者世代の参加が議論を深め事業の精度を高めてくれる存在であると改めて強く思いました。

Q 仕事や行政活動になにか良い効果や逆に負担になってしまった点がありましたか？

負担の部分で言えば、しっかりと計画を立ててやれば問題はないと思います。今回は良いプロトタイプとなりました。これから若者の意見を取り込むというのはさらに重要になると思いますので、今後は一緒に「方法」を考えて欲しいと思っています。



青少年課 小林さん

# インターンシップ実施に関わった職員へのヒアリング③

Q インターンシップ開始前どのような期待や不安がありましたか？

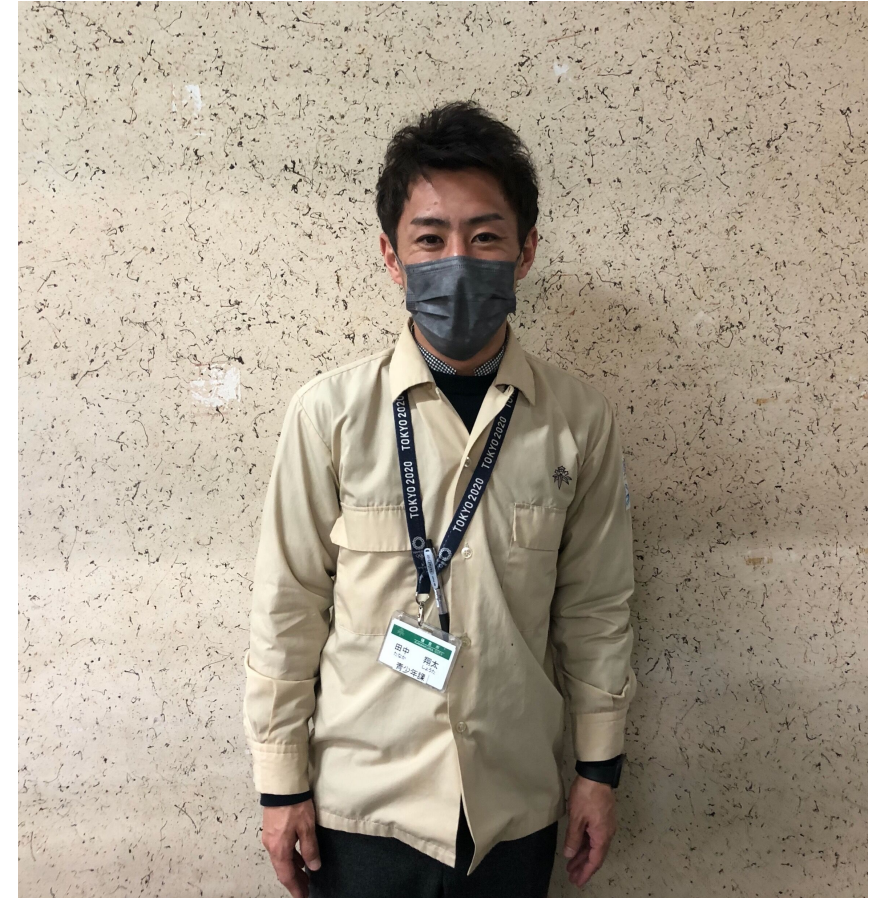
行政には様々な年代の方々がいる中で、ジェネレーションギャップなど価値観の共有がうまくできるか心配な部分がありました。実際に会ってみてどのように感じるか、どうしているか、知るのを楽しみにしていました。

Q インターンシップ通した気づきや、心境の変化などはありましたか？

協議会に参加してもらったり、第三の居場所について考えてきましたが、場の設計など議論を進めるところから一緒にやれば良かったと感じています。議論だけで声を回収するのではなく、仕組みから一緒に組み立てていく必要性を感じました。

Q 仕事や行政活動になにか良い効果や逆に負担になってしまった点がありましたか？

負担になることはありませんでした。ただ、マンツーマンで担当をつけるなどもう少し寄り添った形で進めていくことができれば、お互いに現状を把握しながら同じ方向を向いた状態で協働が行えたかもしれないと振り返っています。



青少年課 田中さん

# インターンシップがもたらした効果について

▶インターンシップを取組むことでもたらされた良い効果

## 子ども政策に関する議論の活性化と深化。

協議会での出来事からわかるように、実際に施策を享受する立場が参加することで議論にリアリティが生まれ、より話し合いが具体的なものへと変化しました。

## 当事者目線のフィードバックをすぐに反映できる存在

当事者の反応を確認したい場面にすぐに駆け付けることができることで、施策の裏付けを得られるとともに、円滑かつ効果的な政策づくりに貢献しました。

## 学生の行政参画のエンパワーメントに

学生側からしても、実際に同世代が市役所に参画し活動している場面を見ることで、関心を高めるきっかけとなるとともに、行政の透明化にもつながったと考えられます。

# 課題と対策・今後に向けて

▶ インターンシップによって浮き彫りになった課題とその対策について

## 行政組織の価値観や動き方の前提をしっかりと共有する必要性

行政的な手続きや理念を再度言語化し、オリエンテーションやフレームワークを充実させるなど丁寧に動き方を伝えることで、現状の制度や施策に対しても協働できる存在になると考えられます。

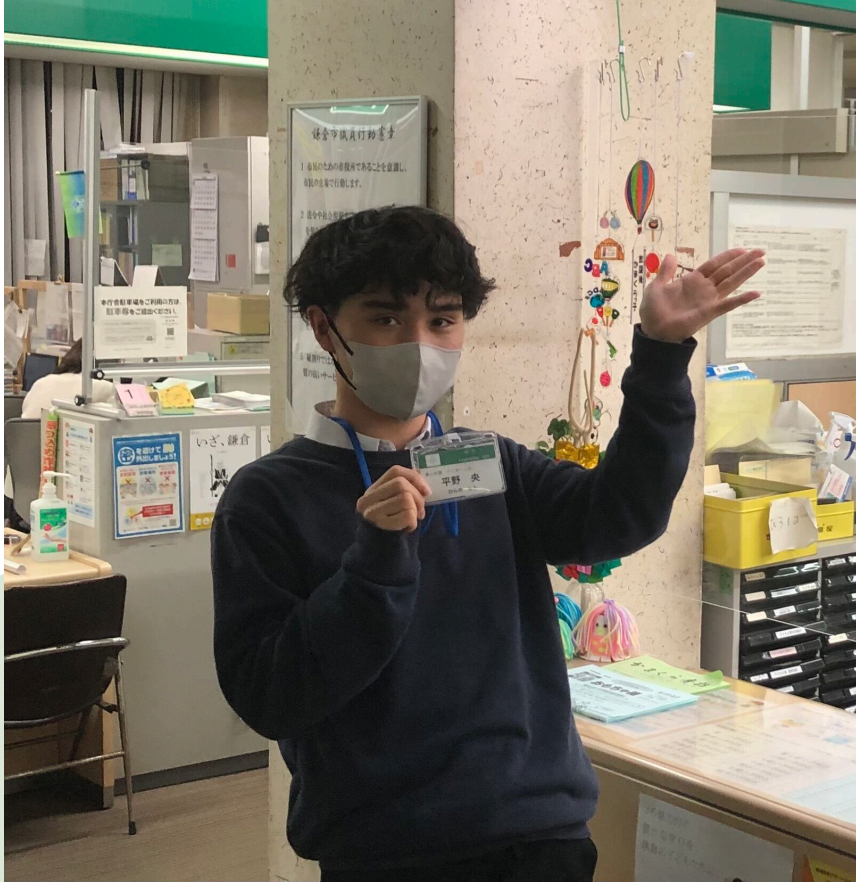
## プロジェクトとして目標や計画を立て、成果を確実にする。

目標や評価指数を適切に設定することで客観的に活動の方向性を確認できるようになります。成果物にもしっかりとこだわり、インターン前後でしっかりと変化を作ることができると考えられます。

## 広聴事業として、声を聴ける学生の母数を広げていく

インターン生だけの助言でなく、今後はその枠を広げていく必要性があります。行政課題に意見をもらうコミュニティをつくるなど、声を拾う仕組みづくりを今後は行っていかなければなりません。

# インターンシップを終えて



鎌倉学園高校3年生 平野央さん

- ・インターンシップを通して市役所が「変えられるもの」と感じました。

これまでの行政との協働とは異なり、直接的に変化を作ることのできる業務を経験したことで、自分でも鎌倉市を秩序づける制度や施策に対して影響力が持てるという自信を持つことができました。外部からの影響力だけではなく、内部起点という新たな変化のカタチを作れたのではないかなと振り返っています。

- ・鎌倉市の全体への理解度が高まり、問題発見や解決策への道筋を明確にできました。

実際に市役所の中に入り、常に新しい情報に触れられる環境にいたことで一気に本質が見え、問題発見・解決のしやすさがあったと思います。自分自身もすぐに知りたいことを職員の方々に確認でき、鎌倉市が目指す方向性など、全体への理解が深まりました。ここで得た経験は、行政との協働の上で今後も生きると思います。

- ・自分のキャリアを見つめなおす機会となり、将来への期待が高まりました。

またこのインターンシップを通して自分のキャリアを見直す良い機会となりました。自分はもともと行政の活動に興味があったのですが、中に入って改めて自分の適性や自己実現との関係性を整理することができました。